mobile版には新イベント情報が随時更新中

右記のQRコードからアクセス下さい。

5 MAY

東北大学サイエンスカフェ　第59回：環境に優しいエネルギー～廃食油から作るバイオディーゼル燃料～
5月28日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　北川　尚美（東北大学大学院工学研究科准教授）
場　所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/event/no59/index.html

6 JUN

日本海水学会第61年会ミニシンポジウム（市民公開）「東北沿岸域の環境と資源利用」
6月3日(木) 16:30▶18:15 無料 申込不要
講　師　角田　出（石巻専修大学）他
場　所　石巻専修大学　5号館3階　5301教室
主催者　日本海水学会　問合先 TEL 0225-22-7716
URL http://www.swsj.org/p2/menu/syusai/2010nenkai/2010sympo-1.html

講演会「インド　大地の布」
6月5日(土) 13:30▶15:00 有料 要申込
講　師　岩立　広子（岩立フォークテキスタイル・ミュージアム館長）
場　所　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　定員 70名
主催者　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　問合先 TEL 022-717-3318
URL http://www.tfu.ac.jp/kogeikan/j/index.html

日本分子生物学会　第10回春季シンポジウム 市民公開講座「医療につながる分子生物学」
6月6日(日) 13:00▶16:30 無料 申込不要
講　師　岡野　栄之（慶應義塾大学医学部）他
場　所　仙台市博物館　講堂　定員 200名
主催者　日本分子生物学会　問合先 TEL 03-3556-9600
URL http://www.mbsj-spring2010.org/seminar/index.html

リベラルアーツサロン第5回「見やすさ、使いやすさの科学 ～教室でのコミュニケーションのヒント～」
6月11日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　熊井　正之（東北大学大学院教育情報学研究部・教育部教授）
場　所　東北大学附属図書館1階メインフロア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/event/poster/20104_10.pdf

元気・健康セミナー　『認知症最前線』
6月19日(土) 10:00▶12:00 有料 要申込
講　師　浅野　弘毅（東北福祉大学健康科学部教授・せんだんホスピタル院長）
場　所　東北福祉大学 ステーションキャンパス館3階
主催者　東北福祉大学　予防福祉健康増進センター　仙台元気塾事務局　問合先 TEL 022-233-2907
URL http://www.tfu-ac.net/yfkc/genki/index.html

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』第4期　「城下町仙台の職人衆」
6月24日(木) 13:30▶15:00 有料 要申込
講　師　鯨井　千佐登（仙台高等専門学校教授）
場　所　大崎八幡宮　祭儀棟　定員 100名
主催者　『国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学』実行委員会　問合先 TEL 022-234-3606
URL http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/index.html

東北大学サイエンスカフェ 第60回：食と環境をまもる微生物たち
6月25日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　中井　裕（東北大学大学院農学研究科教授）
場　所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/event/no60/index.html

民俗芸能講座
6月26日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　東北歴史博物館学芸員
場　所　東北歴史博物館1階研修室　定員 40名
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

7 JUL

第5回脳カフェ「杜の都で脳を語る」
7月3日(土) 時間未定 無料 申込不要
講　師　未定
場　所　せんだいメディアテーク
主催者　東北大学脳科学 GCOE　問合先 TEL 022-717-7908
URL http://ja.sendaibrain.org/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

GWは「学びの庭」におじゃましよう！

MEMSって何？

－デジカメ・携帯電話そして医療機器…なんでも小さく高機能になる理由－

第1回 まなびのめ Live版

2010年5月1日（土）
東北大学　青葉山キャンパス

集合場所は青葉山キャンパス内デイリーヤマザキ・こもれびカフェ前
※バス停は「工学部中央」をご利用下さい。※当日駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用下さい。

時間 ▶13：30～15：40

応募締切・申込方法
4月23日（金）当日消印有効
氏名、住所、職業、年齢、電話番号、メールアドレスをご記入の上、ハガキ、FAX、Web、Email で、編集部までお申し込み下さい。

定　員
15名（先着順）
先着順のため、定員になり次第受付を終了することがあります。

主　催
「まなびのめ」

講　師
東北大学大学院 医工学研究科 教授　専攻・医工学
芳賀　洋一　先生

概　要
13:30～14:30 施設見学
東北大学工学系研究科
◎マイクロ・ナノマシニング研究教育センター
マイクロマシニング棟
◎芳賀研究室施設

14:40～15:40 公開講座
MEMS って何？
－デジカメ・携帯電話そして医療機器…なんでも小さく高機能になる理由－

懸賞 まなびのめクイズ応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、
①住所②氏名③年齢④職業⑤電話番号⑥クイズの答え２つ
⑦内容についての感想を添えて編集部（下記参照）までご応募下さい。
お寄せ頂いたご感想は匿名にて紙版・Web版に掲載させて頂くことがございます。
正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。
【応募締切】2010年5月31日 当日消印有効
クイズの正解は締切後、Web版に掲載します。
※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。ご注意下さい。

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：「科学の哲学」
2010年7月5日発行予定

応募先／問い合わせ先
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間 10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

まなびのめ
学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第8号　／　発行日　2010年4月5日
企画・編集　笹氣出版印刷株式会社「まなびのめ」編集部　／　発行　笹氣出版印刷株式会社
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号　Tel 022-288-5555　Fax 022-288-5551
E-mail: manabinome@sasappa.co.jp　Web版: http://www.manabinome.com

「まなびのめ」編集部　只野俊裕　佐藤曜　川又進　笹氣義幸　遠藤洋子　小玉仁志　菅野保広　芳賀晃平　伊藤秀平　齋藤麻実　オブザーバー：寺田征也(東北大学大学院)
協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

FREE ¥0　ご自由にお持ち帰り下さい。

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

学びの庭におじゃまします

いのち

いのちの誕生を支える宮城の周産期医療の現在

東北大学大学院　医学系研究科教授　周産期看護学
佐藤喜根子　先生

カウンセリングとは“人を受け入れ心に添う”こと

弘前学院大学客員教授　教育心理学
「仙台いのちの電話」理事長
出村　和子　先生

〈行って見よう！「学び」の場所へ〉
- これからの主な「学び」イベント39件掲載！
- 「学び」イベントに行ってきました
- 名著への旅　『福翁自伝』（福沢諭吉）

ⓘ 第1回「まなびのめ」Live版のお知らせ

季刊誌 第8号 2010.4

図書カード懸賞付クイズあります

Web版は随時更新中！
まなびのめ　検索
http://www.manabinome.com

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。
用紙は適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

GREEN PRINTING JFPI P-B10004　Mixed Sources FSC　VEGETABLE OIL INK

これからの主な

「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認下さい。

有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細は Web 版に掲載しております。ぜひご覧下さい。

定期開催

トワイライトサロン「MA☆（マスター）土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 17:00▶17:45 無料 申込不要
講　師　土佐　誠（仙台市天文台長）
場　所　仙台市天文台　オープンスペース　他
主催者　仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300
URL http://www.sendai-astro.jp/

4 APR

特別展「芹沢銈介コレクション インド・インドネシアの染織」展
4月7日(水)～6月30日(水) 10:00▶16:30 有料 申込不要
場　所　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
主催者　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　問合先 TEL 022-717-3318
URL http://www.tfu.ac.jp/kogeikan/

リベラルアーツサロン第4回「公平な分配は社会にどう広がるのか ～コンピュータ・シミュレーションへの招待～」
4月9日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　佐藤　嘉倫（東北大学大学院文学研究科教授）
場　所　東北大学附属図書館1階メインフロア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/event/poster/20104_10.pdf

企画展「政宗の宴―三の丸跡の茶と食」
4月16日(金) 9:00▶16:45 有料 申込不要
場　所　地底の森ミュージアム　企画展示室
主催者　地底の森ミュージアム　問合先 TEL 022-246-9153
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/

ミニ企画展「縄文人の食べ物 ―名取川沿いの縄文ムラと春の食べ物」
4月16日(金)～6月20日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要
場　所　仙台市縄文の森広場ガイダンス展示室
主催者　仙台市縄文の森広場　問合先 TEL 022-307-5665
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/jyoumon/

まちなか美術館「世界の名作ポスター 1945～1990 復刻版でたどるグラフィック・デザイン史」PART2
4月16日(金)～4月28日(水) 10:00▶20:00 無料 申込不要
場　所　東北工業大学一番町ロビー　1Fロビー
主催者　東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL http://www.tohtech.ac.jp/

アースデイ☆仙台市天文台　講演会「いま地球で何が起こっているか～地球温暖化を中心として～」
4月17日(土) 15:30▶16:30 無料 要申込
講　師　花輪　公雄（東北大学大学院教授・理学研究科長）
場　所　仙台市天文台　定員 50名
主催者　仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300
URL http://www.sendai-astro.jp/

特別展「聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝」
4月20日(火)～5月30日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要
場　所　仙台市博物館
主催者　仙台市博物館　問合先 TEL 022-225-3074
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/tenrankai/index.html

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』第4期　「仙台藩に彩りを添えたお姫様」
4月23日(金) 13:30▶15:00 有料 要申込
講　師　伊達　宗弘（前宮城県図書館長）
場　所　大崎八幡宮　祭儀棟　定員 100名
主催者　『国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学』実行委員会　問合先 TEL 022-234-3606
URL http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/index.html

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

学びの庭におじゃまします

「産科医不足」や、妊婦さんの“飛び込み出産”など、「いのち」の誕生にまつわる深刻な問題が、クローズアップされています。痛ましいニュースの直後は関心も高まりますが、実際のところどうなっているのか、きちんと知ることがまず大切ですね。今回は、「いのち」の問題に正面からとりくむ研究者へのインタビュー。お一人目は臨床経験も豊富で助産師育成に携わる佐藤喜根子先生です。

いのちの誕生を支える宮城の周産期医療の現在

産科医を失った地域で悩む妊婦さんたち

全国的に産科医の不足が大きな問題になっていることは、皆さんよくご存じのことと思います。都市部以外では産科医のいない「空白区」が増えており、妊婦さんたちは健診を受けたり出産したりするために、遠くの病院まで行かなければなりません。母親にとっても赤ちゃんにとっても大きな負担です。私は今この問題の調査・研究と、解決のための仕組みづくりに取り組んでいます。

「周産期医療」とは、出産前後の、母体と胎児・新生児の健康を守るための医療のことです。今、周産期医療の現場は、危機的な状況にあります。妊婦健診を受けずに、陣痛や身体の異常を覚えて初めて医療機関に駆け込む“飛び込み出産”や“低出生体重児の増加”などです。その理由としては経済的なものだけでなく、地域に産科医がいないという問題も大きいのです。

2003 年の研修医制度の変更がきっかけで、宮城県各地、東北各地の産科医が大学に引き上げてしまう動きが加速しました。地元の病院で出産できなくなってしまった妊婦さんが多くでてしまいました。一時期岩手県では 8 施設の県立病院で産科の窓口が閉鎖され、約 2,000 人の妊婦が路頭に迷うという状況も生じました。理想は産科医の数を増やし、どの地域にも安心して出産できる医療施設がある状態にすることです。しかし妊婦さんに、そうなるのを待ってもらうわけにはいきません。

国は今「少ない産科医で、いかに安全に出産できるようにするか」という調査・研究を進めています。実は宮城県は、この課題への取り組みでは先進地です。調査・研究に基づいて「セミオープン制度」という仕組みづくりを進め、成果を挙げています。これは、出産に対応できる医療施設を地域ごとに集約し、妊娠中の健診と分娩（ぶんべん）する施設の分業・連携体制を整備しようというものです。

分娩に 24 時間体制で対応できる医療施設には、複数の産科医がいなければなりませんし、異常の発生に備えて母体胎児集中治療室（MFICU）や新生児集中治療室（NICU）も必要です。こうした拠点となる病院は仙台赤十字病院の「総合周産期母子医療センター」をはじめ、宮城県立こども病院と東北大学病院があります。他に分娩を取り扱う公的病院として、市内に 3 ヵ所設定しています。

それでもなお、産科医の数は絶対的に不足しています。また特に異常がなければ、遠くの病院ではなく、自宅近くで出産したいと望んでいる妊婦さんも少なくありません。そこで今、私が期待しているのが「助産師」の存在です。

助産師の活躍で周産期医療をより良い方向へ

助産師と聞いても、具体的なイメージが浮かばない方も多いかもしれません。昔はどの地域にも「産婆（さんば）さん」がいて、出産のお世話をしたものです。戦後は助産婦と呼ばれるようになり、2002 年からは助産師という名称になりました。看護師資格を取得しており、健診をしたり、助産行為を行ったりすることが可能です。今でも女性しかなれません。

私は自分自身が長く臨床を経験し、現在は大学で看護学・助産学の教育に携わっています。その経験から、環境さえ整えれば、助産師は地域の妊婦さんや子育て中のお母さんたちのためにもっと力になれると考えているのです。

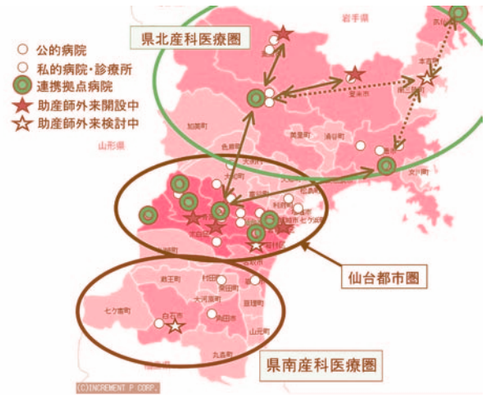
その形はさまざまで、自ら助産院を開業している助産師もいます。病院よりも助産院での出産を望む妊婦さんは、実は少なくありません。しかし助産院の数はわずかです。産科医の嘱託と小児科があって施設の整っている病院を連携先として確保しなければならないなど、開業には厳しい条件があるからです。やむを得ない面もありますが、助産師と密なコミュニケーションを取りながら、自然な分娩、自分らしい出産をしたいと希望する女性は、これからも増えるのではないでしょうか。

産科のある施設で、このような妊婦の希望やより安全を担保する形で、白石市の刈田総合病院では、2005 年から「院内助産所」が試みられました。健診から分娩・産後ケアを助産師が自立して行うというものです。利用した妊婦さんには好評で、全国からたくさんの見学者も訪れたのですが、経営面や人事面などでの課題も浮き彫りになり、残念ながら現在は休止しています。

一方、いま県内で増えつつあるのが、病院内の「助産師外来」です。産科医とワークシェアして、正常域の妊婦健診は助産師が担おうというものです。医師の負担は軽減され、妊婦さんも手厚いケアが受けられますから、現状では、この助産師外来を増やしていくべきだと考えています。

地域の病院に助産師外来が設置されるようになれば、産科の外来よりも受診のハードルが低くなり、周産期だけでなく、その後の子育て相談にも活用していただけるでしょう。また、更年期障害について助言したり、思春期の相談にのったりすることで、女性の一生をサポートする心強い存在になれるはずです。思えばかつての産婆さんは、まさにそういう存在でした。

周産期医療診療圏と助産師外来設置構想



3 年前から取り組んでいる助産師の卒後教育では、超音波診断装置の操作・判読や、胎児心拍装置の読み方などの技術を身につけてもらいながら、助産師外来の開設を呼びかけています。妊婦さんたちの切実な状況を知り、助産師たちは積極的に動き始めました。産科医に自分から健診を受け持つことを申し出て、実現した病院もあります。県北地域には、すでに産科医不在医療施設でも助産師が外来を開設し、健診を行うようになりました。

助産師としての臨床経験を研究に活かす

地域で安心して出産し、子育てにつなげる仕組みづくりを進めるなかで、メンタルヘルスについての研究にも力を入れています。私は臨床の現場が大好きでしたが、育児疲れや児童虐待などの問題を抱える女性たちに出会ううちに、妊婦さんには精神面でのサポートが重要だと考えるようになりました。大学に学び、臨床発達心理士の資格を取るなどした成果を仕事に活かしてきましたが、後進の育成、教育を担うようになった今、精神面でのサポートの重要性をいっそう強く感じています。今年 10 月 16・17 日に仙台で日本周産期メンタルヘルス研究会の学術集会を主催します。看護職や産科医・精神科医が集まり、研究成果を発表します。多くの方々に周産期女性のメンタルヘルスの重要性の理解を促す好機だと思っています。

妊婦さんの中には、病院のシステムになじめない方もいますし、不幸にして担当の医師と良い関係を築けなかった方もいます。そうした女性たちが、帝王切開を選んだことを悔いたり、自分を責めたりする例も見てきました。そうした方々のためにも助産師たちの活躍の場を広げたいと願う一方で、自ら個別の相談に応じることもあります。

10 代の妊娠や 40 代の妊娠、合併疾患のある妊婦さん、低体重出産や異常な妊娠・お産で生まれてくる赤ちゃん。こうしたケースが増え、周産期医療の現場は今、非常に多忙な状況にあります。しかし産科医と助産師、そして NICU の小児科医が良い形で力を合わせることができれば、そうした状況は少しずつ改善され、出生数の減少という問題の解決にも光が見えてくるはずです。そして子どもの数が増えることは、やがて地域の活性化にもつながるでしょう。

今これをお読みの市民の皆さんにも、助産師という職能に、より関心を持っていただければと思います。また、小・中学生、高校生に対する性教育にも取り組んでいますので、そうした機会を作り、助産師を講師として呼んでいただければ幸いです。かつては「寝た子を起こすな」という理由で性教育に消極的な教育機関も少なくありませんでしたが、今はとてもそんなことを言っていられる状況ではありません。そしてもちろん、子どもたちだけでなく市民の皆さんにも、女性の抱えている様々な問題や、周産期医療をめぐる問題に目を向け、一緒に考えていただきたいと願っています。

（取材＝2010 年 2 月 16 日／東北大学医学部保健学科棟・佐藤教授室にて）

東北大学大学院　医学系研究科教授　周産期看護学

佐藤　喜根子 先生

《プロフィール》
（さとう・きねこ）1952 年 2 月宮城県生まれ。東北大学医学部附属看護学校卒業。東京大学医学部附属助産婦学校卒業。慶応大学文学部卒業。東北大学教育学研究科修了。東京大学医学部附属病院で助産師、東北大学医学部附属病院で助産師、後に副看護婦長を務め、東北大学医療技術短期大学部で講師から助教授。2003 年より東北大学医学部保健学科教授。

懸賞　図書カードを当てよう！
まなびめめクイズ
正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　産科医とのワークシェアで、正常域の妊婦健診を担う外来は？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。出村和子先生の記事もご覧下さい。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦内容についての感想を添えて編集部までご応募下さい。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。
【応募締切】2010年5月31日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

佐藤先生からは、仕組みづくりや、先生方・助産師さんのご尽力により、希望が感じられるお話を伺えました。
そうして誕生した「いのち」。大切にしないわけにはいきません。
でも、時に人は、自分の「いのち」さえ大切に思えなくなることがあるのかもしれません。
お二人目は、研究者であるとともに、社会活動の実践家として「いのち」に向き合う出村和子先生です。

カウンセリングとは“人を受け入れ心に添う”こと

自分の切実な経験からカウンセリングの道へ

“いのち”については生物学的な立場や哲学的な立場から考えることもできますが、私は、自殺防止活動の立場からお話ししたいと思います。“いのち”は自分ひとりのものだけでなく、人と人の関わりの中で「生かされてこその命」であると考えています。

日本では今、多くの方が自らの命を絶っており、その数は、1998 年以降昨年まで 12 年連続で 3 万人を超えました。私が理事長を務めている「仙台いのちの電話」は、自殺予防を第一の目的として、電話相談活動をしているボランティア団体です。

私自身、19 歳のときに母を亡くし、その直後「死にたい」と思うほどの悩みにぶつかった経験があります。無我夢中で山に入ったのですが、教会礼拝での教えの言葉から、ふと我に返り、思いとどまることができたのでした。大学卒業後、英語の教師になったのですが、そこで自殺念慮の女子生徒に出会ったのです。自分の体験から彼女の氣持ちだけはよく分かると自負していたのに、「先生は自分のことが心配だから関わっているだけ」と言われ、強いショックを受けました。「たしかに私は教師と言う自分の立場だけを心配していたかもしれない」と悩みました。そうした苦しい氣持ちで彼女と接しているうちに、不思議なことに彼女の心がほぐれ始めたのです。

弘前学院大学客員教授　教育心理学　「仙台いのちの電話」理事長

出村　和子 先生

《プロフィール》
（でむら・かずこ）1932 年秋田県生まれ。東北学院大学文経学部英文学科卒業。米国 T.C. コロンビア大学大学院教育学部および、ハワイ大学大学院教育学部に留学、修士修了（教育学修士）。東北学院大学教養学部助教授、尚絅女学院短期大学人間関係科教授、弘前学院大学社会福祉学部教授、同大学院社会福祉研究科教授を経て、2006 年より現職。日本電話相談学会監事。社会福祉法人「仙台いのちの電話」の創設者の一人で、2003 年より理事長。元仙台市教育委員長。

私は「今のままではいけない、もう一度心の勉強をし直そう」と思いました。カウンセリングを学ぶために米国に渡ったのは、30 歳の時です。帰国して東北学院大学で教鞭をとり、1977 年辞職し、再度渡米するまでカウンセラーとして務めました。

2 度目の渡米から帰国した 1970 年代後半から 1980 年代に入った頃、日本で大きな問題になっていたのが家庭内暴力です。20 歳の男性が金属バットで両親を殺害するなど、悲惨な事件が相次ぎました。ところが当時シンガポールで開催の世界 YWCA の会議でドメスティックバイオレンス（DV ＝家庭内暴力）について話し合った時、子どもが親に暴力を振るう日本の事例は、大変驚かれました。シンガポールでも米国でも、DV と言えば「親から子どもへの虐待」のことだったからです。「日本の子どもは親の言うことをよく聞くと言われていたのに、なぜ？」と問われた私は、初めて「もしかしたら日本では、親が子どもの心を受け入れることに何か問題があるのでは」と親のカウンセリングマインドについて考えるようになりました。

カウンセリングの必要性を考えていた頃、「全国にある電話相談センターが、東北にだけない」と、仙台カウンセリング研究会の方が相談に見えました。仙台に「いのちの電話」ができれば、悩み苦しんでいる若者や大人がどこからでも相談できるというのです。請われるままに、当時の「東京いのちの電話」の視察と連盟に相談に参り、日本で 15 番目の「いのちの電話」の開設を認めて頂いたのでした。

市民の支えで続いてきた「いのちの電話」

「仙台いのちの電話」は 1982 年に設立され、2 年後には社会福祉法人として認められました。現在は 200 名を超えるボランティアが相談員を務め、365 日、24 時間相談に応じています。昨年受けた電話は 2 万 6,568 件で、1 日あたり 70 件以上になります。自殺志向のある電話は 9.5% 程度ですが、厳しい経済状況を反映してか、この割合は一昨年よりも増加しました。

自殺予防を第一に掲げてはいますが、それだけが目的ではありません。若い方の就労の問題、中高年の方のリストラの問題など、それぞれの切実な悩みに耳を傾け「共に悩む」のがカウンセリングの真のあり方です。助言したり救ってあげたりするのではなく、悩みや痛みを分かち合うのです。

2006 年からは、大切な方を自死で亡くされた方にお集まりいただく「自死遺族の会」を開催しています。また昨年 12 月からは、インターネット相談を始め、おもに若い方に利用していただいているようです。スーパーバイザーをつけ、数人でよく検討してからメールを送信するなど、慎重に対応しています。

相談員の方々は皆ボランティアですが、2 年間の研修を受け、認定された人たちです。「何よりも自分の勉強になっている」「心の糧（かて）を得ることができる」と言っていただいており、本当にありがたいことです。また、私たちの活動が 28 年も続いてきたのは、多くの市民の皆さんによる、物心両面のサポートがあったからこそです。収入の多くはご寄付によるものですし、さまざまな方のお志のおかげで、相談電話を受けるスペースや事務局を維持してきました。

今まで「いのちの電話」は、自殺しようとしている人に接する「ミクロの機能」を果たしてきました。しかしこれからは、より生きやすい社会に変えていくための「マクロの機能」を果たすことも重要だと考えています。苦しんでいる方々の代弁者となって、広く社会に訴え、また政府に働きかける役割（アドボカシー）を担う必要があるのです。

経済的に困窮し、通話料の負担から「いのちの電話」に電話をかけることさえためらう人も少なくないはずです。厚生労働省との共催という形で、24 時間のフリーダイヤルを毎月 10 日にだけ実現していますが、もっと拡充していただければと思います。また登米市で実現したように、市外通話の分だけでも自治体が負担して、仙台に電話を転送するという方法もあります。

お母さんに学んでほしいカウンセリング

昨年、私の所属する「電話相談学会」の大会が仙台で開かれました。電話相談は「いのちの電話」に限りません。現在は、公的であるか民間であるかを問わず、多様な電話相談が行われています。心理学者などが集まって、どのような言葉を使うべきか、どのような話し方をすべきかなどの研究をしています。

学会では相談員の研修にも取り組んでいますが、そこで重視しているのは「自分を知るためのトレーニング」です。例えば同性愛が話題になったときに、相談員が否定的な考えを持っていれば、それは相手に伝わってしまいます。あるいは役割を演じてみるロールプレイで、「自殺したい」という電話をかける側になってみることで、当事者の氣持ちをより理解できるということもあります。自己理解と他者理解を、ともに深めることが大切なのです。

「いのちの電話」の活動は、一人の少女の自殺をきっかけにイギリスで始まりました。欧米に比べて、日本では自殺防止への取り組みが、まだまだ不足していると言わなければなりません。キリスト教では自殺は罪とされますが、日本では「死んで責任を取る」と考えたり、生死を自己決定の問題と考えたりする傾向があるようです。また、自立心を養う機会のないまま厳しい現実に直面し、深刻な鬱（うつ）状態に陥って「楽になりたい」「目の前の苦しみから逃れたい」と考えてしまう人も少なくないのかもしれません。

今年は 9 月 30 日から 3 日間、仙台で電話相談活動の国際大会が開かれます。韓国、台湾、オーストラリアなどから参加者を迎え、「世界経済危機といのちの希望」というテーマで、さまざまなシンポジウムやワークショップを行う予定です。国境を越えてお互いに学び合い、また連携しようと準備を進めています。

昔に比べれば、今の日本は物質的に本当に豊かになりました。しかし今の子どもたちは、昔の子どもたちよりも幸せでしょうか。かつて子どもたちは、家族の中、親子関係の中で、他者と触れ合う喜びや他者への敬意を体得することができました。しかし今は、そうした関係が希薄になっているように思えてなりません。

私はお母さん方に、「今どきの子どもはこうだから」と決めつけたり「こうなってほしい」という願望を押し付けたりせず、一人ひとりの個性を見極め、育てていただきたいと願っています。そしてそのために、ぜひカウンセリングを学んでいただきたいのです。子どもの問題は、実は親の問題でもあります。親が自分を知り、自分から変わらない限り、子どもが変わることはありません。こうしたことを、カウンセリングを学ぶ中で知り、人生の良き先輩として子どもたちに接していただければと望んでいます。

（取材＝ 2010 年 2 月 9 日／「仙台いのちの電話」事務所にて）

☎自殺予防いのちの電話毎月 10 日実施
24 時間無料　毎月 10 日（午前 8 時～翌朝 8 時）
フリーダイヤル
0120-738-556

懸賞　図書カードを当てよう！
まなびめめクイズ
正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2　今年仙台で開催される電話相談活動の国際大会のテーマは？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。佐藤喜根子先生の記事もご覧下さい。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え 2 つ、⑦内容についての感想を添えて編集部までご応募下さい。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。
【応募締切】2010年5月31日 当日消印有効

mobile版には新イベント情報が随時更新中

右記のQRコードからアクセス下さい。

4 APR

東北大学サイエンスカフェ 第58回：シャボン玉と宇宙実験
4月23日(金) 18:00▶19:45
講　師　塚本　勝男（東北大学大学院理学研究科教授）　無料　申込不要
場　所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/event/no58/index.html

オープンカレッジ「法科学における音声・聴覚の基礎知識」
4月23日(金) 18:30▶20:00
講　師　木戸　博（東北工業大学工学部情報通信学科准教授）　無料　申込不要
場　所　東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 60名
主催者　東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL　http://www.tohtech.ac.jp/

春の特別展「絵画にみる江戸時代のみやぎ―名所と人々―」
4月24日(土)～6月6日(日) 9:30▶17:00
有料　申込不要
場　所　東北歴史博物館　特別展示室
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL　http://www.thm.pref.miyagi.jp/

ギャラリートーク「21世紀のポスターを考える」
4月24日(土) 13:00▶14:30
講　師　三上　満良（宮城県美術館学芸員）他　無料　申込不要
場　所　東北工業大学一番町ロビー　1Fギャラリー
主催者　東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL　http://www.tohtech.ac.jp/

東北労災病院第3回市民講座「肝機能の数値が高いと言われたら」
4月24日(土) 14:00▶15:30
講　師　小林　智夫（東北労災病院肝臓科部長）　無料　申込不要
場　所　東北労災病院　1階ホール　定員 100名
主催者　東北労災病院　問合先 TEL 022-275-1467
申込締切　http://www.tohokuh.rofuku.go.jp/

企画展「堤焼展―堤焼・堤人形・瓦―」展示解説
4月29日(水) 11:00～、14:00～
講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員　有料　申込不要
場　所　仙台市歴史民俗資料館
主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/calender/index.html

5 MAY

文学サロン「肉筆資料から見えてくる太宰治」
5月1日(土) 13:30▶15:00
講　師　安藤　宏（東京大学准教授）　無料　要申込
場　所　仙台文学館講習室　定員 100名
主催者　仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020
URL　http://www.lit.city.sendai.jp/

第1回れきみん講座「仙台青葉まつりの歴史」
5月8日(土) 13:30▶15:00
講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員　有料　要申込
場　所　仙台市歴史民俗資料館　定員 20名
主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/calender/index.html

小池光ことばのセッション vol.6「三浦雅士に聞く～太宰治と津軽の風土」
5月8日(土) 13:30▶15:00
講　師　三浦　雅士（文芸評論家）小池　光（仙台文学館館長）　無料　要申込
場　所　仙台文学館講習室　定員 100名
主催者　仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020
URL　http://www.lit.city.sendai.jp/

「知っておきたい郷土の作家～得楼・速雄・耕年・天華～」ギャラリートーク
5月8日(土) 14:00▶15:00
講　師　濱田　直嗣（文化史家）　有料　申込不要
場　所　福島美術館
主催者　福島美術館　問合先 TEL 022-266-1535
申込締切　http://www.fukushima-museum.jp/exhibition/index.html

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

参加体験記

「学び」イベントに行ってきました

＜実験教室＞
■「君は化学探偵！　かくれビタミンCを探そう」
講師　名取高等学校　教諭　藤川　卓志　氏
2010年1月9日（土）13:00～15:00　東北電力ビル　グリーンプラザ

講師として参加しました。
科学を仕事にしている人の多くは、実験を行うとき「実験結果の正確さ」や「基本原理に忠実であること」に重点を置きます。しかし私は、子どもの実験教室を引き受けるとき「安全に行えること」と「必ず成功すること」を必要条件として実験を計画します。それは今回のビタミンCに関する実験でも同じです。正確さよりも安全・確実というスタンスです。
子供たちは実験中に必ず何か「やらかし」ます。しかし、そんなことは大した問題ではありません。子どもにとっては、実験をやり遂げることが「楽しい。またやりたい。」につながるからです。
話は変わりますが、平成21年10月3日（土）に東北電力三居沢「水と森のワークショップ2009」でエコせっけん作りを担当しました。そのときは小学校低学年の子どもが多く、扱う薬品が危険であったため、最後の工程「せっけんを浮かび上がらせ、自分で好きな形に加工する」ところを中心に実験してもらいました。
科学実験としては正確さに欠けるため、好ましくない部分も多いのですが、実験をやり遂げて満足げにしている子どもたちから「またやりたい」と言われると、一ヵ月以上掛かる準備の苦労も忘れて「次はどんな実験をやらせてあげようかな」と考えてしまいます。
（講師・藤川　卓志）

＜仙台市市制120周年記念／仙台市歴史民俗資料館開館30周年記念巡回展＞
■「なつかし仙台　あの時、あなたは若かった」
2010年1月24日（日）若林区文化センター　1階ロビー

若林区文化センターに入った途端、いつもと違う印象で面喰らいました。展示されているのは、仙台の昭和初期からの写真やその当時の生活用品です。展示されているロビーの床には、3×4mの大きな当時の仙台市街の地図が貼られており、見知った道路や通りが知らない名前だったりして、「へぇー」とつぶやきながら眺めていきました。会場にはご年配の方がけっこういて、やはり当時の情景を思い出すのか、所々でしみじみと「あったなぁ」や「懐かしい」などの声が聞かれました。展示写真の下には「当時の広瀬通りと東二番丁通りの交差点」など記してあり、現在の同じ場所の模様を思い出し、比べながら見ていくと時代の変化を感じられずにはいられませんでした。私は当時まだ生まれていないので、懐かしむ記憶はありませんでしたが、それでも当時の仙台の街にトリップしたような錯覚が起きるほど、満足な内容でした。
（仙台市若林区・男性　コロンボ）

■「酸性雨一斉測定　19年間の測定活動から見えてきたこと～そして明日につなげるために～」
講師　尚絅学院大学教授　北條　祥子　氏
2010年1月25日（月）みやぎ生協ウィズに於いて

みやぎ生協メンバーを中心として続けてきた酸性雨測定活動が19年続いて、一応ピリオドを打ちました。農協の方や一般市民の協力によって延べ44,000人分のデータが蓄積されたのはすごい成果だと思います。
パッチテストによる酸性雨測定は、全国に先駆けた試みだったようで、当初から関わられた尚絅学院大学生活環境学科の北條先生は、手探りで取り組まれたそうで随分ご苦労されたことと思います。測定する私たちも、毎年梅雨時に忘れずに測定値を測ろうとする為に天気予報を確認したり、いろいろ工夫してデータを提供しました。
酸性雨のデータは地球規模の環境の悪化を示す目安になり、中国の環境汚染の影響が大きいことも数字で伝えます。身近な観点では、自動車排ガスによる汚染など、地球レベルの大気汚染が悪い影響を及ぼしていることが示唆されたので、足許から排ガス削減、ゴミ減量等の行動を起こしていくことが大切だということを再認識させられました。
北條先生が“Think Globally, Act Locally!”（地球全体を考え足許から行動しよう）の精神で“Think Future, Act Now!”（未来を考え今行動しよう）を進めようとまとめられました。
（庄子　都（しょうじ　みやこ））

まなびめめの色使い

襲色目（かさねのいろめ）
袷仕立て（あわせしたて）された衣服の表地と裏地の配色で平安貴族の雅な色。
四季折々の変化をその様相の比喩表現によって色彩として感じ取ってきた日本人が作り上げてきた配色法です。第8号：「桃（もも）」（momo）

＜まちなか美術講座（14）＞
■「高山　登が追求する造形」
講師　宮城県美術館学芸員　和田　浩一　氏
2010年1月30日（土）13:00～14:30　東北工業大学一番町ロビー

せっかく氣軽に講座というものに参加できる機会があるのだから、と思い立ってすぐにこの講座に足を運んでみました。
興味はあれど造形芸術に詳しい程ではなく、この講座が初めて高山登氏の作品を鑑賞する機会でした。美術作品との「初対面」は大抵の場合は美術館や作品集などで出会うものと思います。ですので講座にて解説をして頂きながらスクリーンで作品を眺める「初対面」は新鮮なものでした。どうして枕木という素材を選んだのか、それで彼は何を表そうとしていたのか……。氣まぐれに鑑賞するだけでは知ることが出来ない作品の意味を伺うことができ、より一層作品への興味が高まりました。
「百聞は一見に如かず」とはよく聞くものですが、百聞を聞いた後の一見と未知の一見は大きく異なるものになるでしょう。美術館で高山氏の作品と再会したときどのような感動があるのか、楽しみにしております。芸術との接し方を考えさせられたとても実りある講座でした。
（仙台市若林区・女性　爛漫）

＜縄文講座＞
■「縄文人の木の実利用ー世界から考えるー」
講師　国立民族学博物館教授　松山　利夫　氏
2010年2月21日（日）13:30～15:00　仙台市縄文の森広場　体験活動室

第3回縄文講座とありましたが、私は初めての参加です。
先日、『縄文の森広場』ののぼりを目にし、「こんな所にあったの？」意外にも私の生活圏内に位置していました。今度ぜひ立ち寄ってみようと思い、本日の参加に繋がった訳です。縄文人は木の実食としてブナ科のドングリを主食にしていたようです。ドングリはお米に匹敵するカロリーだそうです。世界のドングリ食習慣をもつおもな地域は北半球にあって、南半球にはその記録がなく、栄養価が高いもっとおいしいものがあったのでは？…と先生。東アジアでは商品として流通する韓国のドングリの澱粉で作った寒天状の食品「トットリムック」があります。ムックの（ク）は発音しないのだとか。日本では加熱処理や水さらしによるアク抜きなど加工技術が優れていたようです。さすが日本人！　現在に通じるものがありますね。松山先生は大阪で文化人類学を専門とされているとの事で、オーストラリア、アボリジナル民俗の話等、聴く側としては2倍楽しめる内容でした。
（仙台市太白区・主婦A）

「参加体験記」募集中！
◎投稿先「まなびのめ」編集部　Webからも応募できます。
◎採用させていただいた方に粗品を進呈いたします。

第9回

名著への旅

『福翁自伝』
福沢諭吉 著
会田倉吉 校注
旺文社文庫
（1970年2月15日　初版発行）

中学校時分からずっと目の前にありながら、永く読まず嫌いをしてきた本である。どうも「天ハ人ノ上ニ人ヲ造ラズ人ノ下ニ人ヲ造ラズト云ヘリ」から来る堅いイメージが一因であったようだ。
「フランクリン自伝」などとともに、自伝文学最高峰のひとつに挙げられる。読んでみれば、ページの先を争う面白さである。諭吉唯一の口語体の書であり、その点現代人にもなじみ易い。
想像を絶する記憶力。加えて語り口の氣っ風のよさ。そもそも口述筆記したものが基になっているので、その語勢が直に伝わってくる。今でこそ傑出した啓蒙家というイメージが先に立つが、若い時にはなかなか豪放にして破天荒であったようだ。史実に絡んだ部分はもとより、時代思想や政治、あるいはお金や処世というものに対して、彼がどういう考えを抱いていたか。これを知るだけでも一読の価値がある。
文庫本にしてケース入り。昔の本づくりはまことに剛毅であった。
（曜）

これからの主な

「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

5 MAY

第80回日本衛生学会学術総会市民公開講演・シンポジウム
5月10日(月) 13:30▶17:15
講　師　小泉　直子（内閣府食品安全委員会）他　無料　申込不要
場　所　仙台国際センター　橘
主催者　第80回日本衛生学会学術総会　問合先 TEL 022-717-7893
備　考　学術総会の一部を市民にも公開します。

石巻専修大学開放講座「知の発展―どこからきたのか　どこへゆくのか」（全12回）
5月13日(木)～ 19:00▶20:30
講　師　杉田　博（石巻専修大学経営学部准教授）他　無料　要申込
場　所　石巻専修大学　4号館1階　4101教室　定員 200名
主催者　宮城県教育委員会　問合先 TEL 0225-22-7716
URL　http://www.isenshu-u.ac.jp/general/

生涯学習講座「教養としてのカウンセリングⅢ」（全3回）
5月15日(土)～ 10:00▶15:00
講　師　松浦　光和（宮城学院女子大学教授）他　有料　要申込
場　所　宮城学院女子大学　定員 10名
主催者　宮城学院女子大学生涯学習センター　問合先 TEL 022-279-4341
URL　http://www.mgu.ac.jp/20syogai/index.html

ギャラリートーク「芹沢銈介コレクションに見るインド・インドネシアの染織について」
5月15日(土) 13:30～
講　師　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館学芸員　有料　申込不要
場　所　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
主催者　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　問合先 TEL 022-717-3318
URL　http://www.tfu.ac.jp/kogeikan/

第15回日本癌学会市民公開講座「がん医療の最前線」
5月16日(日) 13:00▶16:30
講　師　荒井　陽一（東北大学病院泌尿器科教授）他　無料　要申込
場　所　仙台市青年文化センター・シアターホール　定員 500名
主催者　日本癌学会　問合先 mail：gan-shimin15@accessbrain.co.jp
URL　http://www.jca.gr.jp/public/course/15_sendai.html

実験教室「シャカシャカ発電機でLEDを光らせよう」
5月16日(日) 13:00▶15:00
講　師　高橋　明（宮城物理サークル）　無料　要申込
場　所　東北電力グリーンプラザ　コミュニティールーム　定員 25名（小学4～6年生）
主催者　東北電力グリーンプラザ　問合先 TEL 022-225-2969
備　考　申込締切5月2日（日）

オープンカレッジ「エネルギーと新規材料の開発」
5月21日(金) 18:30▶20:00
講　師　加藤　善大（東北工業大学工学部環境情報工学科講師）　無料　申込不要
場　所　東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 60名
主催者　東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL　http://www.tohtech.ac.jp/

古文書講座入門編（全3回）
5月22日(土)～ 13:30▶15:30
講　師　東北歴史博物館学芸員　無料　要申込
場　所　東北歴史博物館1階研修室　定員 40名
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL　http://www.thm.pref.miyagi.jp/

特別講演会「マスメディアと診察室のはざまで」
5月22日(土) 16:00▶17:00
講　師　香山　リカ（立教大学教授、精神科医）　無料　申込不要
場　所　ホテルメトロポリタン仙台「曙」
主催者　東北大学艮陵同窓会　問合先 TEL 022-717-8181
URL　http://www.med.tohoku.ac.jp/gonryo-alumni/index.html

生涯学習講座「なかにしあかね女声合唱作品を楽しむ～『悲しみの意味』」（全5回）
5月26日(水)～ 12:40▶14:00
講　師　なかにし　あかね（宮城学院女子大学教授）　有料　要申込
場　所　宮城学院女子大学　定員 40名
主催者　宮城学院女子大学生涯学習センター　問合先 TEL 022-279-4341
URL　http://www.mgu.ac.jp/20syogai/index.html

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略